— 特　集 —

国指定重要無形民俗文化財

与論十五夜踊

450周年

与論十五夜踊は、室町時代の永禄４年（１５６１年）に創作されたと伝わり、多くの方々のご尽力により現在まで連綿と継承されてきました。
本年、平成２３年は与論十五夜踊が創始されてから４５０周年という大きな節目に当たり、９月１１日、１２日にかけて記念行事が行われました。

450周年記念行事 十五夜踊シンポジウム 記念祝賀会が開催

４５０周年を記念し、９月11日に十五夜踊シンポジウム及び記念祝賀会が開催されました。

「与論十五夜踊の歴史的価値」と題した基調講演で、和泊町歴史民俗資料館の先田光演館長は、「十五夜踊の歴史背景をみると、複数の地域の踊りを組み立てて出来た他に類を見ない壮大なものである。祖先の人々の願いが込められた与論島の誇り高い、文化であり芸能である。」と話しました。

続いて行われたシンポジウムでは、与論町文化財保護審議会の麓才良会長をコーディネーターに、十五夜踊保存会の大馬福徳さん、与論郷土研究会の土持俊秀さん、旅行エージェント代表として本園金盛さんが壇上にあがり、それぞれ十五夜踊の継承や、起源と保存、観光資源としての十五夜踊などのテーマについて意見を交わしました。

引き続き行われた記念祝賀会では、与論小学校児童による与論十五夜踊の演舞からはじまり、島の郷土料理が振舞われる中、４５０周年を盛大に祝いました。

①基調講演にて先田館長　②３人のパネリストで、十五夜踊の歴史的背景や継承、文化的価値を検証する
③与論小学校児童による十五夜踊　④記念式典にて保存会徳田泰三会長　④十五夜見学に集まった小・中学生
⑥綱引きのワラで叩き合い無病息災を願いました

450周年記念行事 十五夜踊記念式典 十五夜踊奉納

豊年祭当日、境内には４５０周年を迎える十五夜踊を見ようと、沢山の町民、観光客が集まりました。

記念式典では、与論十五夜踊の継承にご尽力いただいた方など８名に感謝状が贈られました。

続いて十五夜踊が奉納され、「雨賜り、賜り、島がぷうどう世がぷう」と歌い踊られると、会場からは大きな手拍子が上がりました。

中秋の名月が上がり、一重一瓶で集まった観客らが盛り上がる中、８月の十五夜恒例の「獅子舞」と「綱引き」が行われました。

シュロの皮を纏った獅子舞が会場を練り歩き観客らを沸かせました。続いて綱引きも行われ、切れた縄の藁でお互いを叩き合い、無病息災を願いました。

十五夜踊の最後は、一番組・二番組が合同で踊られる六十節。一般参加者も参加し、賑やかなカチャーシーで与論十五夜踊４５０周年を締めくくりました。

与論十五夜踊の由来 その歴史

与論十五夜踊は、花城世之主が島民慰安の娯楽をつくるため、三人の息子たちにそれぞれ本土、琉球、奄美、島内の踊りを調べさせ、これらの踊りを組み合わせて室町時代の永禄４年（１５６１年）に創始されたものと言われています。

明治時代、数年間踊を中断したところ、疾病・天災が続いたので復活されました。それ以降、現在まで長きに亘り踊り継がれてきました。

この与論十五夜踊は、島の「島中安穏」「五穀豊穣」を願い、年３回旧暦の３・８・１０月の１５日に地主神社に奉納されます。昔、娯楽の無かった時代には、島民の唯一の楽しみでもありました。

踊りは、一番組と二番組で構成され、一番組の踊り方は本土風、二番組は琉球風の舞踊が取り入れられ、前者の勇壮と後者の優雅が対照的な踊りです。その歌踊りや台詞は当時を偲ばせる貴重な文化研究材料にもなっています。

平成５年１２月１３日には、国の重要無形民俗文化財の指定を受け、本年、平成２３年には与論十五夜踊が創始されてから４５０年という大きな節目を迎えました。